



政務活動報告書

令和元年 年 9 月 10 日

〔会派名： 心風会 〕

代表者氏名	永岡 禎 	記録者氏名	荊原 広樹 
活動者氏名	・永岡 禎 ・幸松 孝太郎 ・荊原 広樹		
活動日	令和元年 8 月 20 日 (火) ~ 令和元年 8 月 21 日 (水)		
活動先	福井県勝山市 石川県能美市		
活動目的	勝山市「子育て支援の日本一の取組み」 能美市「住みよさランキング上位の取組みについて」		



日程 8月20日(火)

場所 勝山市役所(勝山市元町1丁目1番1号)

目的 子育て支援日本一の取組みについて

概要

多子社会の実現にむけて、子育て支援は重要な課題である。しかしながら、当市においても、各種手当等の整備や待機児童の解消はまだ課題を残している。当然財政規模によって自治体間の格差は致し方ないにしろ、できる範囲内では解消していかなければ少子化問題の解決にはつながらない。勝山市では待機児童ゼロや、保育料の減額等の成功もしているので、手法を学ぶ必要がある。

着目点

- ・人口が3.8万人から2.5万人に減少
- ・第3子目から一律20万円支給
- ・児童センター利用料無料
- ・放課後デイサービス無料
- ・インフルエンザ助成1,000円支給
- ・妊婦奨励金10万円支給
- ・医療費窓口負担中学校卒業まで0円
- ・子育て生活応援部隊 シルバーが保育、送迎、家事代行を1時間350円で行う
- ・待機児童0名
- ・児童教室は空き教室利用
- ・入園前の保育園待機ができる

名張市において

人口減少の中ではあるが、確実に手厚い子育て環境が整っていると感じた。妊娠、出産、育児までの一連のサポートだけでなく、相談窓口の充実など、市民がサービスを知る機会も多いと感じた。せっきくの施策も市民が知らなければ意味がないので、名張市においても発信方法の更なる工夫が必要だと感じた。福祉の理想郷を目指すうえで、やはり先進事例は積極的に取り入れていくべきと考える。



日程 8月21日(水)

場所 能美市役所(能美市来丸町1110番地)

目的 住みよさランキング上位の取組について

概要

人口減少対策として流入者を増やすために、いかに市に魅力や付加価値を持たすことができるかが問われる時代になりました。そんな中、石川県能美市では東洋経済の「住みよさランキング」において数年間上位入賞を果たしている。人口流入や若い世代の確保にも成功しているため、当市に参考できる部分を多々あるので、能美市における手法を学ぶ。

着目点

- ・人口5万人で微増傾向にある
- ・高速インターが出来、工場誘致にも成功している。
- ・都市は金沢市まで約40分
- ・丸いも焼酎が名産
- ・外国人比率が石川県内1位
- ・中小企業2千社以上
- ・医療費助成がランキング1位。高校生まで窓口負担0。所得制限なし
- ・特殊出生率は1.6で全国平均より上
- ・保育園に放課後児童クラブがある
- ・不妊治療助成も充実

名張市において

能美市はご時世でありながら、人口が僅かに増えている。企業誘致と子育て支援を手厚くすることで効果を出している。また近隣の大学でも外国人を多く受け入れることが、外国人増加につながっている。まちの観光としても滝と古墳ということ、市立病院を有するということが名張市に似ている。高速までの距離が名張市は課題だが、368号線の4車線化で少しでも早い流通インフラの整備が必要である。医療費助成日本一という点で、当市も参考にしながらも、今後の目標となるようにしなければと考える。

